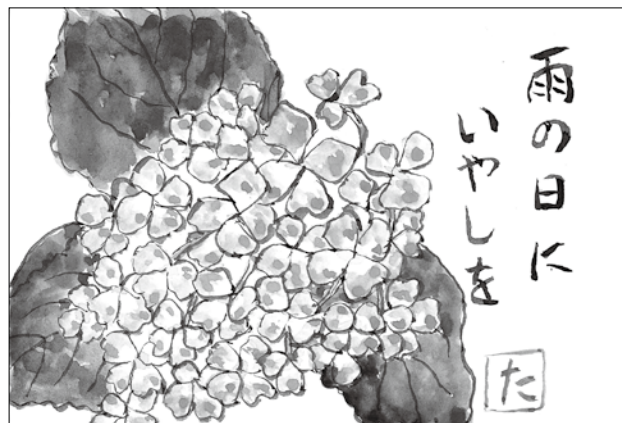


組合員の作品

絵手紙
さつき支部
中西多恵子



堺・三宝下水処理場の
アジサイ
ひまわり支部
山本 和子



ちぎり絵
さつき支部
久保 喜代



絵手紙
ヤマホロシ
あいあい支部
上原 克子



短歌

戦世の余多の犠牲忘れまじ冥福祈るは今在る我かも

若人に文えられての老いの道謝して歩まん生ある限り

集い寄り語りて楽しいこいの家手厚き昼餉に笑こぼしつ

成田支部 門川 松江

芋堀て母親困む昼餉時遙に豊後水道望む

門真中央支部 兵頭 克己

少女の因女性となりしを告げ合おうと遠い昔のゆびきりげんまん

みい支部 團 満理子

「見事散りましよ国の為」歌えとやいくさする国になだれんとする

みい支部 稲原 一枝

※皆様の投稿をお待ちしています。(写真・短歌・絵手紙など)

編集委員会 ☎072-882-5025 (組織部まで)



似顔絵 林 修先生
みい支部
松本 勲二

戦後70年を迎えて

五島列島で長崎原爆の惨状を知る

私は昭和10年12月、大阪の港区朝潮橋で生まれ6歳のとき両親の故郷五島列島に疎開、すぐに父は赤紙で招集されソ連国境に出征して行きました。働き手をなくし、母は大変な思いをして私たち9人の子どもを育てました。私が小学5年生の夏です。もうじき昼飯になると楽しみにしている時、「ドーン」と雷が遠くで落ちたような音がしたので。私たちがいる五島と長崎本土とは100kmは離れています。長崎の半島は、はるかにかすんで見えません。母も腰を伸ばし、額の汗をぬぐいながら「なんだろっ?」私の顔を見ました。その後、水上飛行機でどんどん怪我人が運ばれ、担架にのせられた人、目だけのぞかせた顔中包帯の人、もう元気がなくて息絶えているような人もいました。原爆の被爆者だったのです。五島では役場の人をはじめ村人総出で手当てや看病にあたりました。

その後、イワシクジラが潮を吹く豊かな海を日本の軍艦が航行、空にはアメリカB29が大きな編隊を組んで五島の上を飛行し、見上げれば飛行機の腹が銀色に光って日本本土に向かって飛んでいきました。やがて、終戦を迎えました。が貧しい田舎で当時はラジオもなく、玉音放送は聞いていません。

あれから70年も経ったのかと時の流れに驚きます。もう二度と、どんな戦争も起きないように戦争を知らない人達に、戦争の愚かさ・悲惨さを伝えていきたいと思っています。

門真中央支部 岩端 巖